



若者よ! 世界にでよう!

ドイツ日記

～その2：高速列車 ICE～

ドイツ連邦
物理工学研究所
山口敦史
Atsushi Yamaguchi

ドイツの新幹線 ICE

1

ドイツには Inter-City Express (ICE) という、国内の主要都市を結ぶ高速列車があります。今回は、この ICE について紹介しようと思います。

まずは外見を御覧下さい(写真1)。高速列車と言いつつ、日本の新幹線のように、見るからに速そうなスタイリッシュな形をしていないせいか、パッと見てもあまり高速という印象は受けません。実際、私が今まで利用した際には、時々時速 150 km に達するぐらいで、平均時速は 100 km 程度でした(車内表示の値)。インターネットで調べると、営業時の最高時速は 250 km とあるので、区間によるのかもしれませんが、車両には 1 等車と 2 等車があり、座席の値段が倍ぐらい違います。私は残念ながらまだ 1 等車を利用したことがないのですが、恐らく新幹線のグリーン車と普通車の違いを想像して頂ければいいのではないかと思います。2 等車の席は、二人横並びの席、真ん中に机の付いた四人用のボックス席、個室になっている六人用コンパートメントの 3 種類があります。どの席も広くて快適です。新幹線のようなワゴン販売はないのですが、車両編成によっては食堂車が付いています。また以前、車掌の方がおいそな冷えたグラスビールを運んでいるのを見かけたことがあるので、個人的にいろいろと注文してもいいのかもしれません。

チケットの購入や席の予約はドイツ鉄道のホームページから可能です。予約が完了するとチケットの PDF ファイルがメールの添付ファイルとして送られてくるので、それを印刷して、後は電車に乗るだけです。いちいち切符を取りに行ったり、



写真1 ドイツの高速列車 ICE

切符が郵送されるのを待たったりする必要がないので、とても便利です。チケットは、できるだけ早く購入することをお勧めします。これは座席の予約が取りやすいということだけではなく、値段も全く違うからです。ドイツ鉄道の場合、基本的に早ければ早いほどチケットが安く、最も安いケースでは本来の半額近い値段で購入することも可能です。

唯一の欠点

2

さて、このようにとても便利で快適な ICE なのですが、唯一といってもよい欠点は、よく遅れる、という点です。私は今までに何度も ICE を利用したのですが、時間どおりに運行されていたことは数えるほどしかありませんでした。写真2を御覧下さい。これはある日の、ハノーファー駅の案内板を撮影した写真です。左から時間、列車の番号、目的地などの情報が表示されています。注目して頂きたいのは、一番右の欄です。文字は小さくて見えないかもしれませんが、白い帯になっている欄は何らかの理由で列車が遅れていることを意味しています。この写真でしたら、上から 1, 3, 4, 5, 7 段目の列車が遅れています。つまりこのときだけでも半分近くの電車が遅れているわけです。

この状況は、少なくとも私が今まで見た駅では、いつでもどこでも同じでした。私はベルリンに行くときに初めて ICE を利用しましたが、そのときも行きは 10 分遅れて発車し、夜の帰りの電車は何と 1 時間遅れて発車しました。ドイツにいる日本人の友人にこの話をしたところ、やはり同じような経験をされているようで「ICE の乗り継ぎがあると、とてもうまくいくとは思えない。朝からもう気が気じゃない」と言っていました。



写真2 一番右の欄の白い帯が列車の遅れを表している

ただ、ドイツのICEが遅れるといっても、ほとんどの場合15分程度ですので、日本人の私が過剰に気にしすぎという面もあるかもしれません。しかし、その頻度が実に多いのです。いつ駅に行っても、半分ぐらいのICEが軒並み10～15分ぐらい遅れています。日本の分単位で正確に運行されている新幹線を見て育った私から見ると、やはりこれは信じがたい状況です。

もちろん、だからICEは駄目だ、と言いたいわけではありません。ICEの乗り心地は快適で、個人的には好きな電車ですし、実際に何度も利用しています。それよりも、なぜこんなに頻繁に遅れてしまうのか、というところに私は非常に興味があるのです。

なぜ遅れるのか？

3

なぜICEが遅れてしまうのでしょうか。最初から技術的に実現不可能なダイヤを組むはずはありません。ということは、一人一人の運転手が、自分の担当区間で少しずつ遅れているとしか考えられません。そして夜になる頃には、その少しずつのズレが至るところで蓄積し、私が経験したような1時間以上という大きな遅れになってしまうのではないかと思います。

それではなぜ一人一人の運転手が遅れてしまうのでしょうか。素人考えにも、例えば駅と駅の間在一定間隔にチェックポイントを設置し、その通過時間から運行時間を調整するなどの対策が考えられます。ドイツの高い技術力を考えると、恐らくそのようなシステムは導入されているのではないかと思います。それでも遅れているとすると、技術では補正しきれない、もっと何か根本的な原因があるのではないかと考えざるを得ません。いろいろと考えてみたのですが、私はドイツ語の時間の言い方に、少なからずその原因があるのではないかと思います。

ドイツ語の時間の言い方

4

英語でもそうですが、ドイツ語で時間を言うときには非常にややこしい言い方をします。例えば10時10分ならば「10分過ぎた10時」と言います。なぜわざわざこんなややこしい言い方をするのか、日本語を母国語とする私は、なかなか慣れることができませんが、ドイツ人は何とも思わないようです。この程度はまだまだ序の口で、10時45分は「11時まで後1/4時間」と言います。10時20分に至っては「半分11時まで後10分」と言います。もうこうなると、なぜなのようです。しかし、私が注目しているのは中途半端な時間の場合です。例えば10時43分だとすると「11時まで後大体1/4時間」と言います。つまり、ドイツ人にとっては45分も43分も大体同じ、というわけです。この「大体」を使う、というところが非常に重要な点だと思うの

です。この言い方の根底にある「2分ぐらい大した差ではない」という考え方こそ、ICEの遅れの一つの原因ではないでしょうか。例えば次の駅の到着が10時43分だったとしても、運転手の頭の中では「大体10時45分か」となり、それだけで2～3分は簡単に遅れる可能性があるわけです。

この話をやはりドイツ人の友人にしたところ「でも仕事のときは、そういう人達も（日本語のように）シンプルに10時43分と言うと思うよ」と言っていました。そうなのかもしれません。しかし、例えそう言ったとしても、本人の長年染み付いた感覚的などころ、無意識下ではやはり「大体10時45分」なのではないかと思うのです。

充実したお詫びの品

5

こう考えると、いくら技術が発達しても、人間が運転している限りICEの遅れはなくなるかもしれないとすら思うのです。そして、もしかしたら、ドイツ鉄道はそのことを既に分かっていて、ICEを分単位で正確に動かすことは、諦めてしまっているのではないかと思える節があることです。というのは、ICEが遅れた際の「お詫びの品」がとても充実しているからです。私が経験しただけでも、あるときは新聞が無料になったり、あるときはお菓子が配られたり、あるときは何かの割引券が配られたり、と非常にレパトリーに富んでいるのです。あくまで私の印象ですが、これを見ていると、列車を分単位で正確に運行するよりは、ある程度の遅れはもうどうしようもないので、遅れたときに何とか乗客の不満を和らげられるよう一生懸命努力しているように思えるのです。

まとめ

6

今回はICEに話を限定しましたが、遅れに関してはドイツでは他の電車についても似たような状況です。今後は、ドイツ以外でも、電車がよく遅れる国では、やはり曖昧な時間の言い方をするのか、機会があったらぜひ調べてみたいと思います。

以上は、もちろん私の単なる勝手な想像にすぎませんが、もしかしたら、これからドイツのICEを利用される予定の方は、この記事を読んで不安に思われるかもしれませんが、どうぞ御心配なく。例え列車が遅れて問題が発生したとしても、ドイツの方は皆とても親切ですので、困っていれば必ず助けてくれます。しかし、乗り継ぎの回数ができるだけ少なくすることをお勧めします。

最後に私の職場での話を一つ。私の勤めているPTB (Physikalisch-Technische Bundesanstalt) には、1億年に1秒ほどしかずれない、世界でも1、2位を争う極めて正確な原子時計があります。以前その開発者のドイツ人の方にこのICEの遅れの話をしたところ、「別に10分ぐらい遅れたっていいじゃないの。何をそんなに急いでいるの?」という返事が返ってきて、何だか拍子抜けしてしまいました。